ぼうずのざんげ

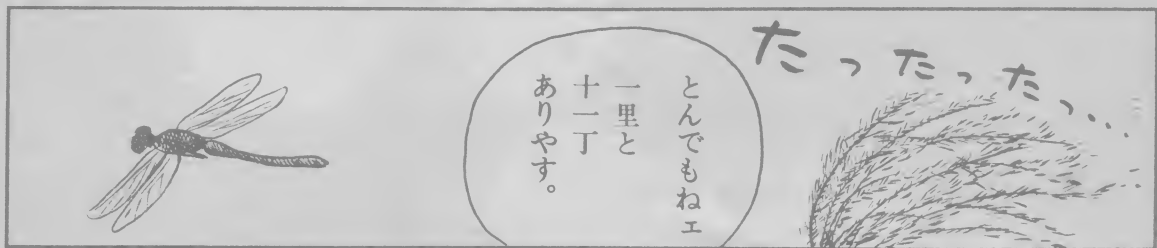
杉浦日向子

バサッ

そねいに
彼岸花を
むしるモン
じゃアねえ
カブレルよ

ウッチャッテ
おくんなせえな
死人花なんざ
目ざわりでいけねェや
墓場にだけ
咲いてりゃいいものを。

…花に
科はあるめェに
ソレヨカ
旦那、
乗るんですかい
乗らねエん
ですかい!?
さや
さや
さや
さや
ウム、
次の宿迄
一里と
わずか
だろう。
たったった
たったった

たったった…
とんでもねェ
一里と
十一丁
ありやす。

それでも
百二十文と
ゆうナァ
ちょっと…
たったった

ナンノ
高かねえさ
旦那と子供の
二人だものを
一度
乗ってみなせえ
ぐっと
疲れが
とれまさァ

なら
勝手にしなせえ

とぷん

ソリヤア、
ずいぶんだ
!!

!
おとー
バチャ
バチャ

つる
きちッ
む

びかっ

ざっ
ざざざ

ばちゃ
ばちゃ
ざぶ
ざぶ

………

馬鹿者ッ!!
ジ〜〜ン

ハハハ
モウ川に
はまったりなぞ
しますまいて
びた
びた
びた
びた

カサとツエを
ペコ

コレハドウモ
ペコ

バタ
バタ
バタ
バタ

はっくしゅ

サ、ボッサマ当座ン間コレをお着けなせえ
コレハコレハ。
あります

坊さま、
お腹……

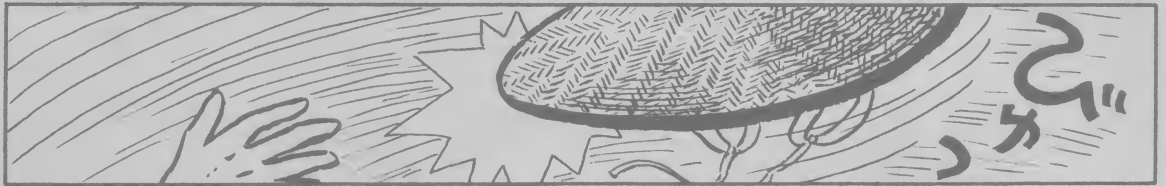
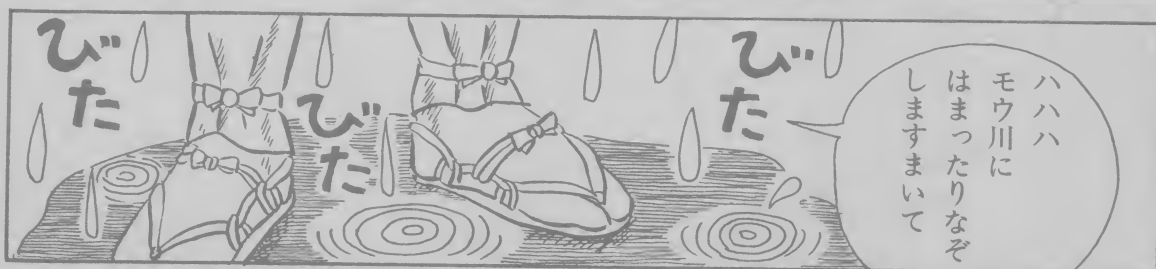
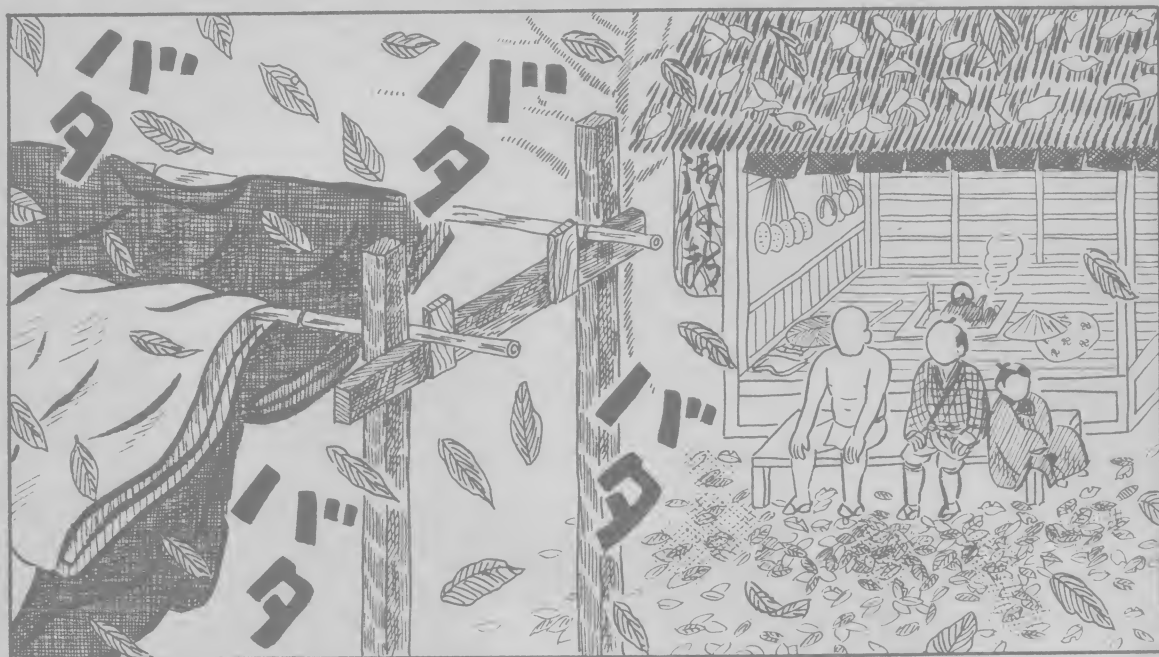
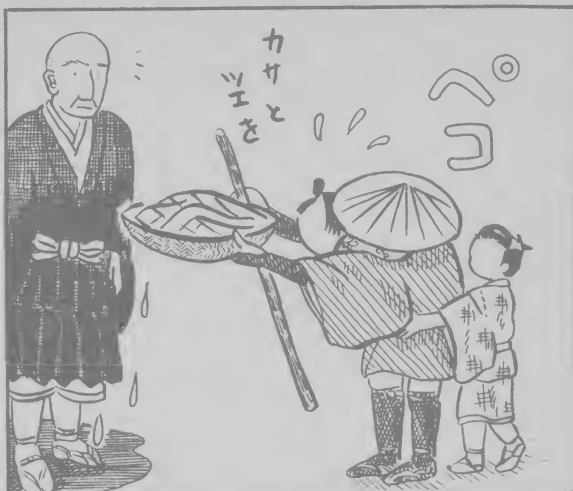
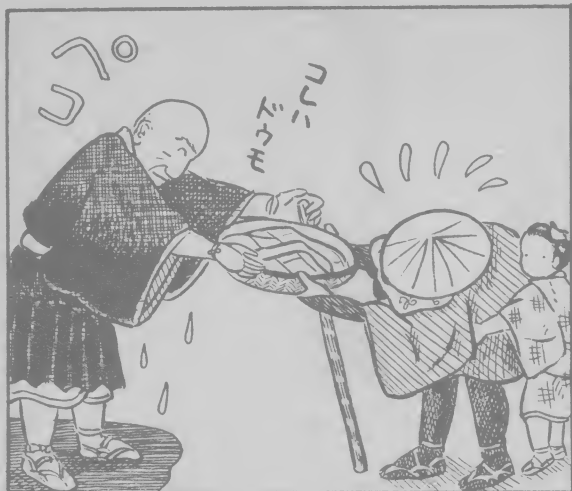
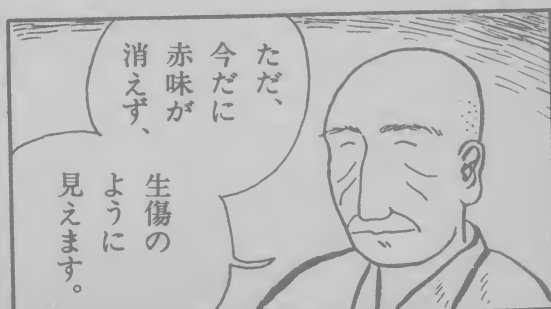
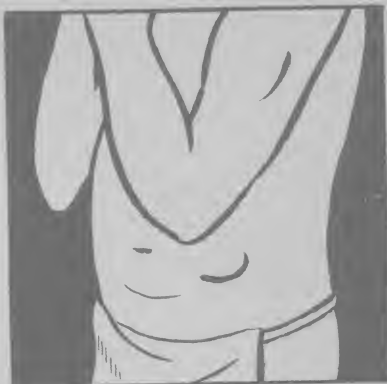
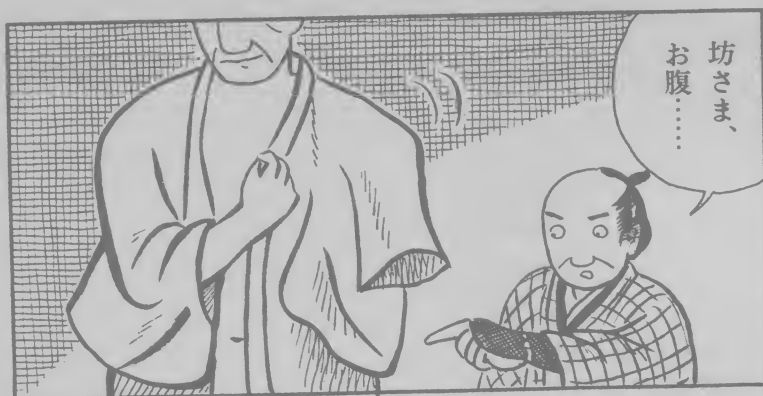
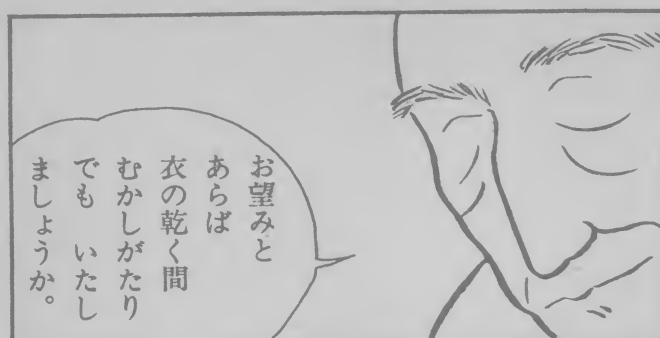
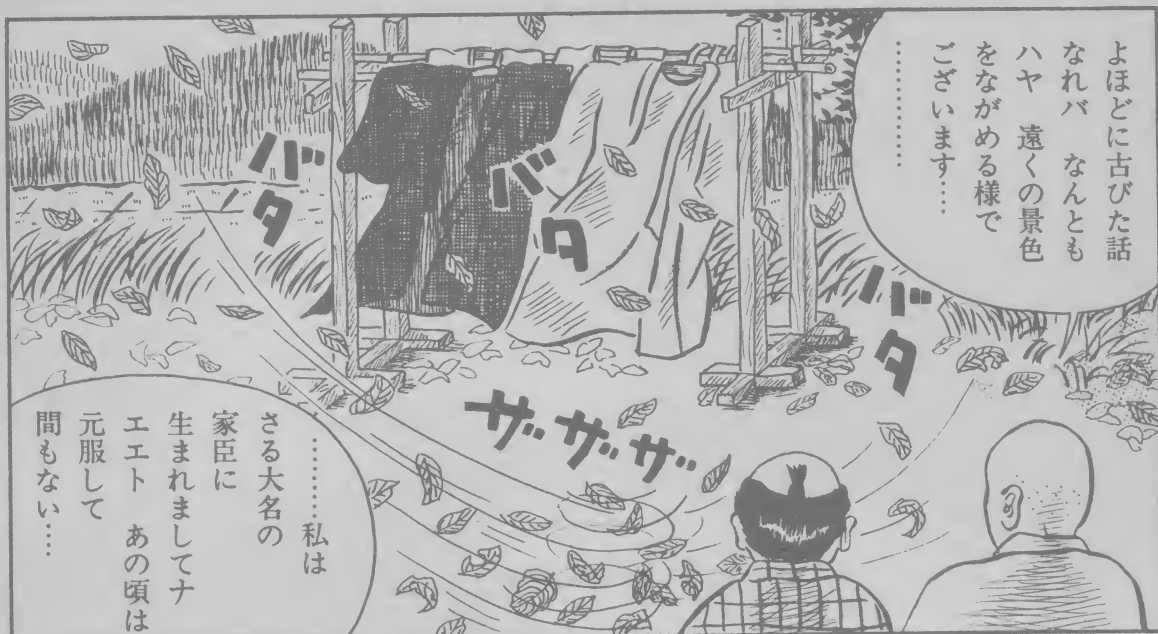
はい。
気味が悪う
ござんしょう

イエ
彼岸花の
花びらかと

コレデモ
よほど
古傷
なのです。
曼珠沙華

ただ、
今だに
赤味が
消えず、
生傷の
ように
見えます。

はい
これも
報いとやら
申すもの
ですじゃ

ホオ
それは
面妖な

お望みと
あらば
衣の乾く間
むかしがたり
でも　いたし
ましょうか。

よほどに古びた話
なれバ　なんとも
ハヤ　遠くの景色
をながめる様で
ございます……
…………
バタ
バタ
バタ
ザザザ
……私は
さる大名の
家臣に
生まれましてナ
エエト　あの頃は
元服して
間もない……

ソウ、十八、九
でしたか………
ハッハッハ……
人一倍気短かの
強情張りと
いうヤツで…
コレハ　モウ
若気の至りの
見本で
ございますよ

相手は幼な友達で名を倉石といいます何かにつけ好敵手の小癪なキレモノです。

口論のモトといいますと…ナンデスカ…ハハハ何とも些細な事で…恋の鞘当とやら申しましょうか。

ソウ大声を出すな外聞が悪い

ひとりでいきり立つ。

だが それは貴様がとやかく言う筋合いではあるまい。

文を二三度やりとりしただけの事でモウ良人気取りとは実に恐れ入る。

……ぐっ。

物事を己の都合の良い様にしか解釈せぬ癖知ってはおったが

マ・コ・ト極上上吉のめでたい男だの

そんな訳で私といえばモウ不倶戴天といったタイソウ悲壮な心持ちでありました。

手を退けろ、馬鹿馬鹿しいしい!!
ぐぐ
あいそがつきる

どのみち、再び娘が文を呉れる事もあるまいよ…………諦めろ
……!!

ふ
それにしてもたいした娘よのう

ソレに惚れたが身の不運と悟るべし。アー笑止千万!!
ははは
お…おのれ弄ずるにも程があるッユ、許さぬ!!

くす…
おぼこい顔をして肚の内はとんだ策士だ。

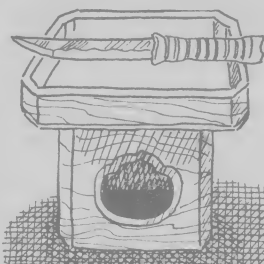
ふふふ
ふふふ
は!?
どうした
声が
ふるえて
いるぞ
……!!

武骨者が
小娘の戯事に
これ程ムキに
なるとは
知らなんだ
のー
あっはは
ダ……
ダマレ

ヤア、
一体
何という
顔だ!
だまれ
アハハ
ハハハ
ちょっと
スゴイじゃ
ないか!

くっ!
これは
ドウゾ
皆にも見せて
やりたい!
黙ら
ぬかッ!!
くっくっく
ふふふ
実に
傑作!!

娘は倉・石・の・兄・の
後添になるのだと
その日の内に
耳に入りましたが
あとの祭り……

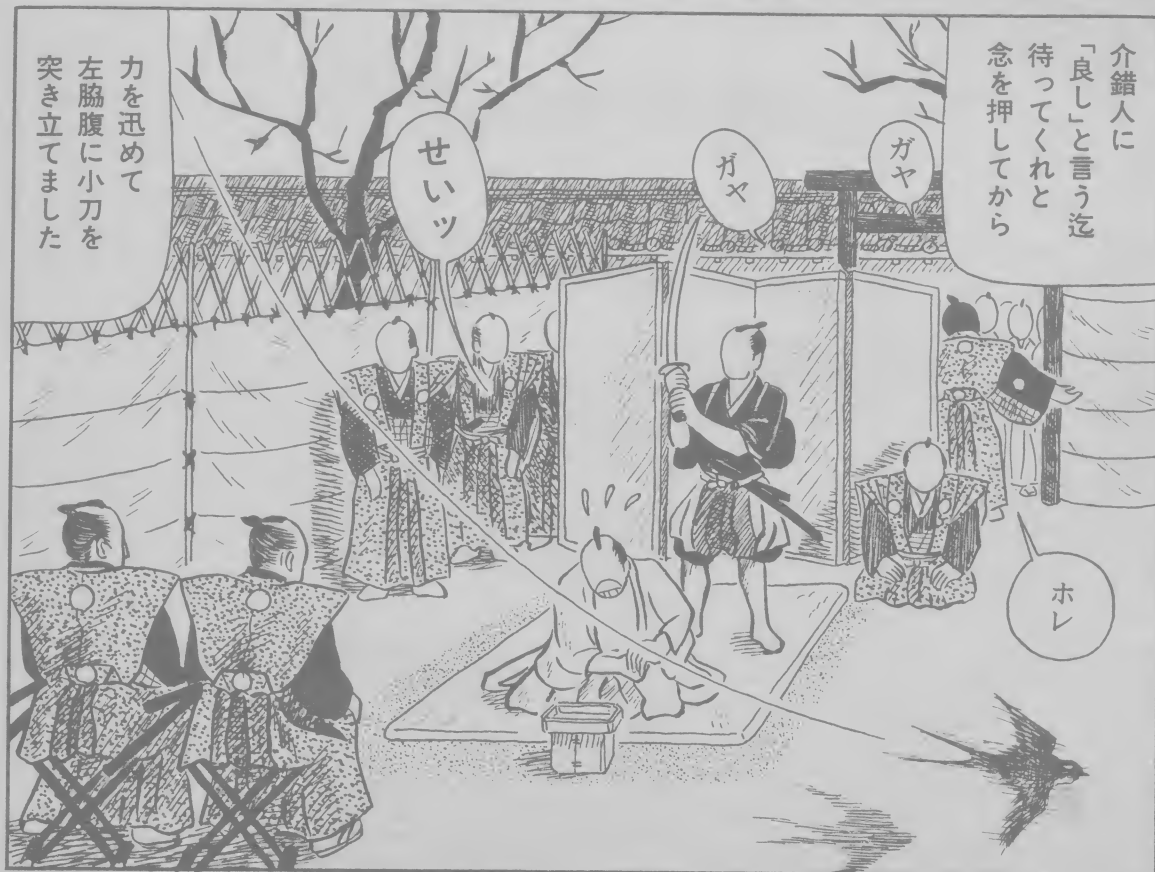
倉石自身にしても
肩すかしを喰った事は
私同様でありますから
たいへんな斬られ損です。
ずいぶん
ひどい事をしたものです。
私は　切腹を
仰せ付けられました

介錯人に「良し」と言う迄待ってくれと念を押してから

ガヤ

ガヤ

せいッ

ホレ

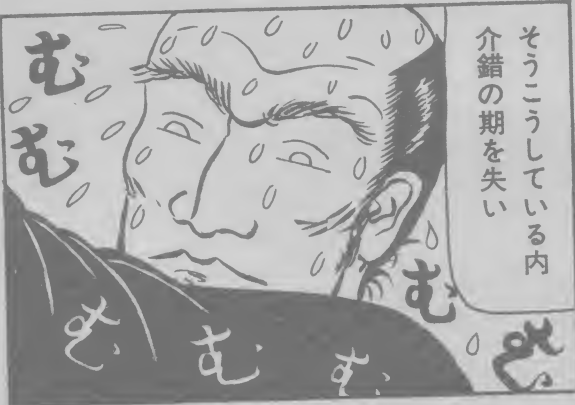
力を迅めて左脇腹に小刀を突き立てました

しかし
これがいけなかった

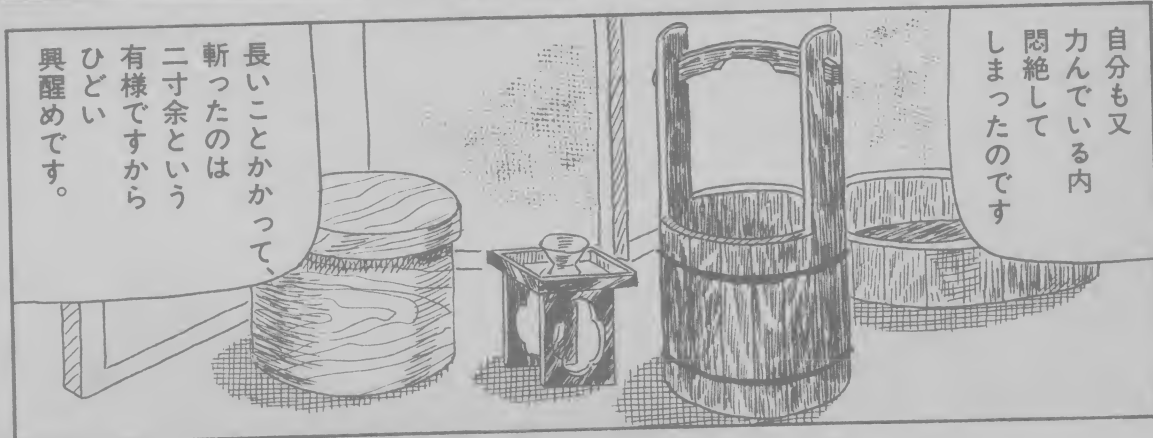
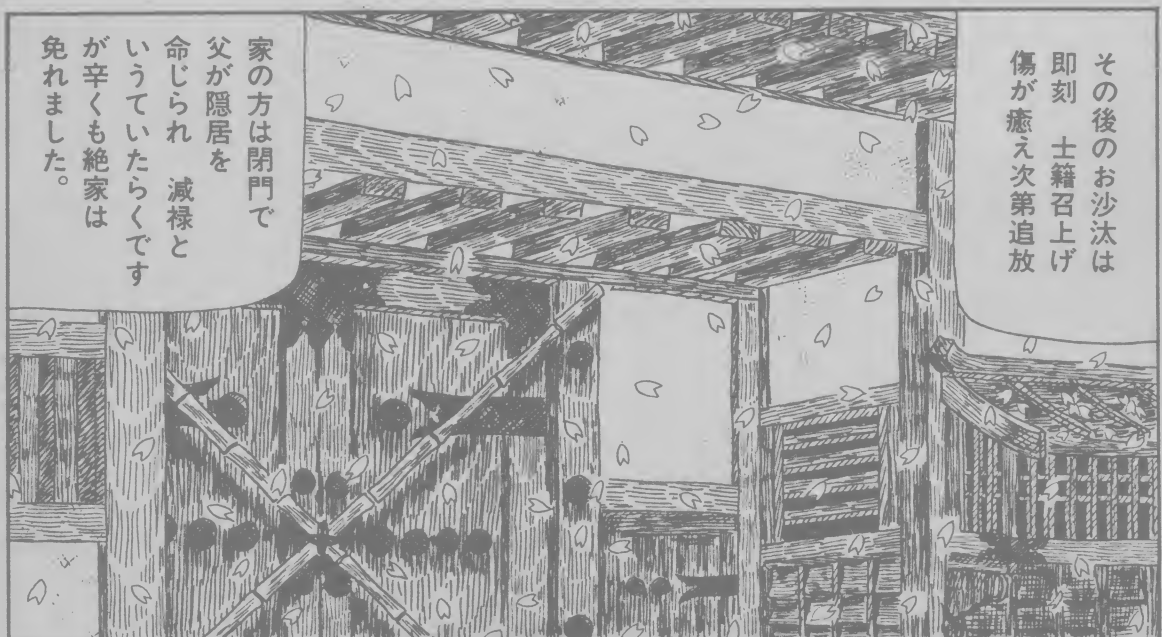
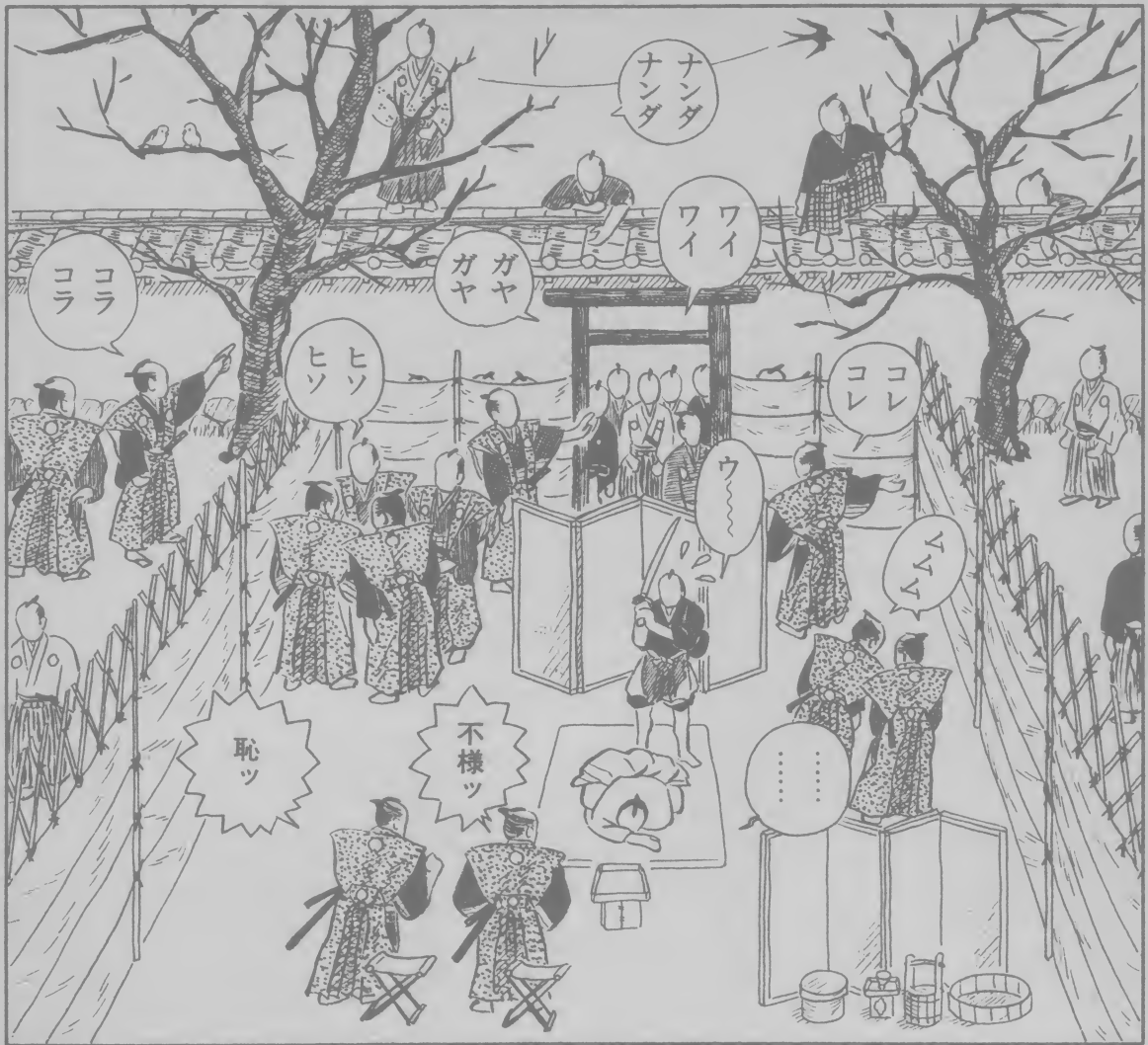
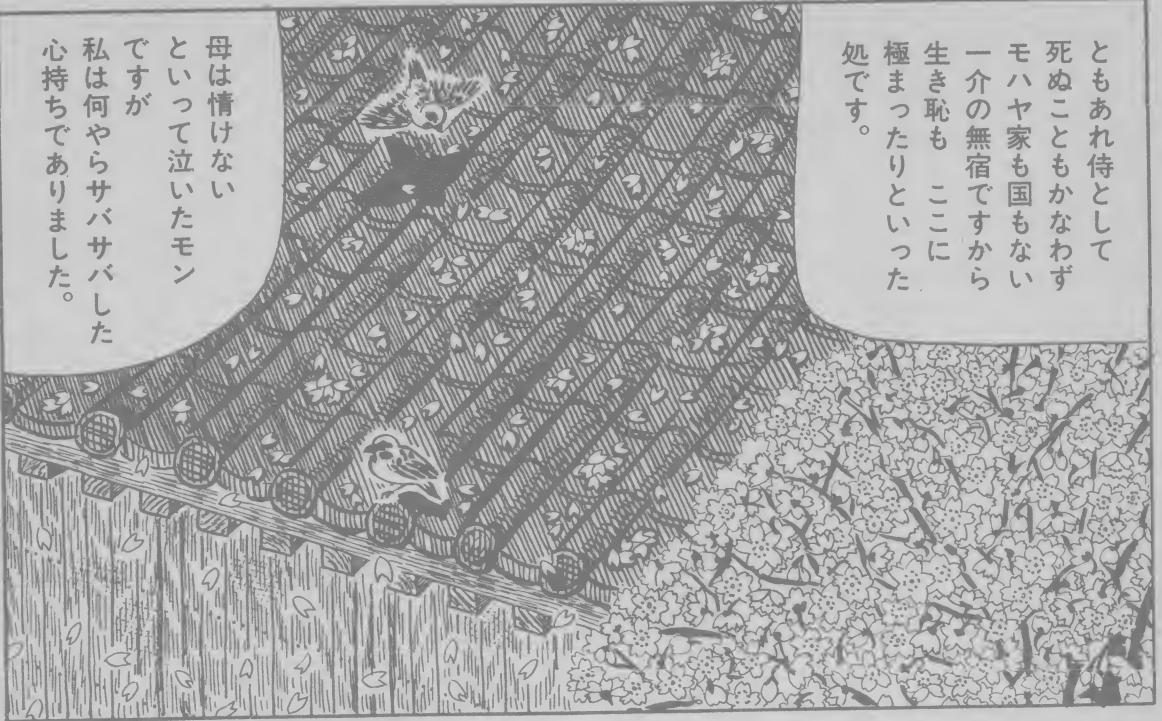
あまり深く
突きすぎて
うぐぐ
どうにも右へ
引き回す事が
できない
むむむ

後では介錯人が
やむを得まいと
刀を振り上げる
むん

ところがこっちは
意気地があるから
「まだまだ」と制して
がんばっている

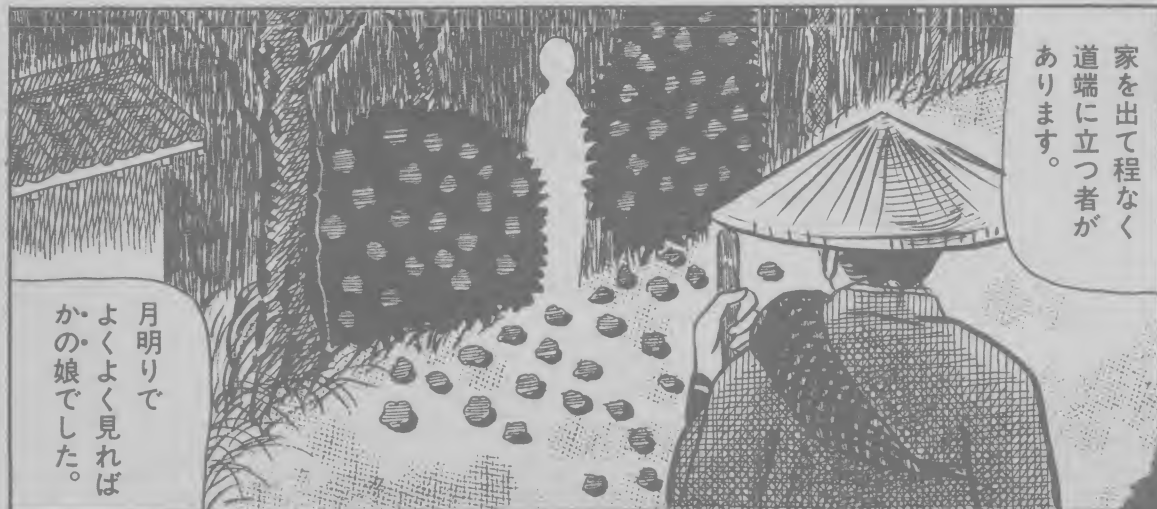
あせる程に
腹が硬くなり
びくとも動かない
ウウ〜ッ
ぶる
ぶる
ぶる
ぶる

そうこうしている内
介錯の期を失い
むむ
む

自分も又
力んでいる内
悶絶して
しまったのです
長いことかかって、
斬ったのは
二寸余という
有様ですから
ひどい
興醒めです。

ナンダ
ナンダ
ワイ
ワイ
ガヤ
ガヤ
コラ
コラ
コレ
コレ
ヒソ
ヒソ
ウ～～～
ムムム
……
……
不様ッ
恥ッ

ともあれ侍として
死ぬこともかなわず
モハヤ家も国もない
一介の無宿ですから
生き恥も　ここに
極まったりといった
処です。
母は情けない
といって泣いたモン
ですが
私は何やらサバサバした
心持ちでありました。

床に伏している間には
娘の縁談は親同志の
取決めによるものだと
いうことも知れました。

そうすると
倉石か私かが
娘の胸中にあった筈
ですが　今更モウ
川向うの火事です。

父の自慢である庭先の藤棚が咲きそろったのをはなむけに

私は城下を落ちました。

どこをどう通って来たのか振袖には泥がつきあちこちから血を流しておりました。

からたちの生垣あたりにやられたのでありましょうか

その様子が何やら恐しく感じられたものです。

……娘は無言で後をついてまいります。

ヒタ
ヒタ
ヒタ

カッ
カッ

私も只只歩きました。

ふり返ると
ただぽっかり
闇があるのでは
ないかとか
あるいは
娘が夜叉に
変じているのでは
ないかとか
さまざまな事を
考えながら
歩きました。

ザザザザザ

ザザ

ヒタ
ヒタ
ヒタ
ヒタ

ザッザッザッ

街道口の
千年松で
娘は
着いてくるのを
やめました。

よほど歩いた頃
振り返ってみますと
墨絵のような
風景の中に
なんともわびしく
ちいさな娘の姿が
ありましたよ。

……それからまぁ
いろいろと
いろいろと
ございました……

バサバサッッ
はい
ずいぶんと
退屈な長話を
してしまい
ましたの…
ヤレヤレ
お疲れ
さま

ぽーとっ

ずず…

すうー

ところで
どちらへ
行かれます

はあ
美濃から出て
まいりましたが
江戸へ参りたく
存じます。
それは
長旅で。

シカシ
ここ迄来れば
江戸はモウ
目と鼻の先で
ございましょう

はあ
それが
………
ここ迄来て
どうしたら
良いものか
迷っておる
のです。

………。
お前様は
紺屋を
なさって
おられましょう。
………

仰せの
通りです。
大垣で細々と
暮して
おります。

息子ばかり
七人ありまして
この子が
末子。
す〜〜
かねてから
江戸の親類より
丁稚にお出しなさいと
話がありまして
十になったらと
考えておりました。

実は
この子は
マダ
八ツですが
くう〜
あと
一年わずかが
どうにも
辛抱できず
連れてまいった
訳で
ございます。
……………道中
初めての遠出に
大喜びする　この子を
見るにつけ　何か
足が重うござります

坊様、
衣が乾き
ました。
ハイ。
お世話
様

お発ちなされますか。

はい
日暮れ迄には浦和へ参りたく存じます。

完。